

銅・アルミ

市況見通し

10月

銅

8月の伸銅品生産量は、前年同月比で3・5%減の4万4050ト。ただ、14品目中8品目が前年同月実績を上回った。

8月の銅電線出荷量(推定値)は同10・3%減の4万2100トで、うち国内が同11・1%減、輸出が同40%増だった。

銅輸出は、電気銅が同1・8%増の6万5340ト、銅スクラップが同32・6%減の2万372ト。

銅輸入は、電気銅が不安定により、売れず買えずのこう着状態となった。



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

LME銅・為替予想

今月は「中国の景気

10月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9000~10000ドル	強い
電気銅建値	130~154万円	強い
為替(1ドル)	140~150円 (1カ月間TTM)	円高

動向」と「米・FRB(連邦準備制度理事会)の金融政策」に左右される。

「中国の景気動向」では、中国が預金準備率の引き下げや不動産市場の安定化を図る支援策を打ち出した。一連の景気刺激策が中国経済を支える可能性が高いと見ている。

「米・FRBの金融政策」では、予想通り9月のFOMC(連邦公開市場委員会)で0・5%の利下げを行った。パウエルFRB議長は9月30日、米経済が堅調な足取りを維持していることから金利引き下げは「時間とともに」進むと発言。利下げはほぼ織り込み済みだが問題はその幅。

雇用統計やイランイスラエル問題が激化しているため、利下げ幅は縮小に向かっていると予想している。

アルミ

8月のアルミ圧延品生産量(板類・押出類合計)は同6・1%減の11万6567トとなり、前年同月比でマイナスに反転した。8月の生産量は板類が同3・0%減の7万2969ト、押出類が同10・9%増の4万3598ト、アルミスクラップが同34・1%減の2万2182ト、アルミ缶が同65・3%増の7112ト。

8月のアルミニウム二次合金・同合金地金生産は同6・3%減の4万9723ト(マイナスに反転)。出荷は同8・0%増の5万321ト(マイナスに反転)だった。

輸出はアルミ新地金が同48・2%減の171ト、アルミニ二次合金が同10・1%減の8万5991ト、アルミニ二次合金が3・1%増の9万895ト、アルミスクラップが同0・8%増の716ト、アルミニ合金スクラップが同38・2%増の7990トだった。

10月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2400~2700ドル (現物後場買い)	強い
スクラップ	プラス10~プラス20円 (前月最終価格より)	強い

アルミスクラップ景況予想

LME価格は2390ドルから2600ドル台へと上昇した。このため流通(一次問屋)は、出荷が増在庫薄となった。

需要面は、先月の相場低迷による持ち込み量減少に伴い在庫薄となった。